



す。「三韓征伐」「遣唐使」等、當時支那と日本との政治の中心であり、警備の中心でありました。太宰府が近くにありますが此の邊は當時に於きましては、盛に支那の船が來て居つた所であります。

先年此の大學を建る際など地面の下から當時の古い支那の陶器が多數出て參りました。斯くの如く此の邊の砂の中には澤山支那の陶器が這入つて居るのであります。御承知の様に文永の役に當時元軍が此の邊に襲來致しまして、戰酣の時多々良川に上陸して、箱崎の日本軍の脊後に迫り、此の邊は焼かれたのであります。其夜博多灣に暴風が有て元軍の船が大破損をして退却したのであります。それに懲りて今津の方から多々良にかけて石垣を作つたのであります。此の防壘は弘安四年再度攻め來た時に、之によりまして敵の上陸を一步もさせなかつたのであります。此の防壘は今でも今津の邊に残つて居ります。

一部は大學の中の冶金學實驗室の傍にも御座ります、若し御趣味が御座居ましたら屋上にお上り下さいますと其の當時の事が窺はれるのであります、然し乍ら工業として古來博多織、博多絞、博多人形の他見る可きものはなかつたのであります。

明治から大正にかけて、鐘紡博多工場、大日本麥酒會社、日本足袋工場が出來ました。近くは渡邊鐵工所が航空機の製作にかゝつて居ります、現在の所、工業としては各位の御參考になる様なものは無いのでありまして、其點甚だ遺憾であります。北九州の工業地帯、長崎の方に之からお出遊になつて御見學になる事の出來ますのが幸と思つて居ります。

尙、終りに申し上げますが、當大學は明治 44 年の創立でありまして今年丁度 25 周年を迎へます、大學と致しまして實は、此の大會と同時に、25 周年祭を行ふ豫定で御座りましたが色々な譯で二週間ばかり延期致しまして、本大會と同時にやる事とならないのは甚だ遺憾であります、期日は多少違ひますが創立 25 周年の記念に際しまして權威ある諸君の御集りを願ひまして此の大會を大學に開いて戴くと云ふことは、我々關係者として非常に喜ばしい次第であります、其の點深く此の會の幹部に對して感謝して居る次第であります。

私は何も役にはたゝまないのですが、各實行委員に夫々分擔して準備して戴きましたが、皆様方に充分満足を得なかつた點があるかも知れませぬが其の點惡しからず御容赦を願ひます。

甚だ簡單で御座りますが之を以つて終ります。(拍手)

午前 9 時 10 分より、水谷日本鐵鋼協會々長の司會の下に堀田秀次君(二三質疑應答あり)小島義正君(二三質疑應答あり)鮫内周三郎君(二三質疑應答あり)の講演番號第 3 迄演了し 10 分休憩に入り

午前 10 時 45 分開會、井上克己博士司會の下に、矢島忠和君(二三質疑應答あり)下村佳夫君(質疑應答あり)遠藤信君の講演番號第 6 迄演了時恰も正午を告ぐ、晝食 40 分間休憩

午後 1 時開會、久保田省三司會の下に、太田清君(二三質疑應答あり)元森信夫君(質疑應答あり)横山均次君の講演番號第 9 迄演了し 10 分間休憩に入る。

午後 2 時 15 分開會 前會長鹽田博士司會の下に五十嵐勇君(質疑應答あり)稻村賢三君(質疑應答あり)今井弘君の講演番號第 12 迄演了し休憩に入る。

午後 3 時 45 分開會 齋藤大吉博士の司會の下に、西村秀雄君(二三質疑應答あり)岡本正三君の講演番號第 14 迄演了し 10 分間休憩に入る。

午後 4 時 40 分開會 島岡本會監事司會の下に、野田浩君、大塚誠之君(二三質疑應答あり)等講演番號第 16 迄演了し第 1 日のプログラムを最も順調に經過す、終了後去昭和 9 年本會第 14 回講演

大會に於て昭和製鋼所久留鳥取締役撮影の本會々員の滿洲弓長嶺の見學狀況を 10 分間映寫した、以上の通にして最盛會裡に散會せり。

講演大會 第二日 昭和 11 年 10 月 18 日(日)午前 9 時開會、晴會場 九州帝國大學工學部大講堂

定刻振鈴 前會長河村博士立つて第 2 日の講演會開始を宣し直ちに司會者席に移る同博士司會の下に講演番號第 17 齋藤豊三君(質疑應答あり)に初まり高尾善一郎君(二三質疑應答あり)澤村宏君の講演番號 19 迄演了し 10 分間休憩に入る。

午前 10 時 45 分開會 金子實行副委員長の司會の下に多賀谷正義君、横山武人君、藤井寛君の講演番號第 22 迄演了す時恰も正午を告ぐ(晝食休憩 40 分)

午後 1 時開會 前會長俵博士の司會の下に、田畑農夫君、太田雞一君、(二三質疑應答あり)岡田實君の講演番號第 25 迄演了し 10 分間休憩に入る。

午後 2 時 25 分開會 川上義弘博士司會の下に、佐々木新太郎君 菊田多利男君、岩崎航介君、依國一君の講演番號第 29 迄演了し本講演會プログラムを全部演了し盡せり。最後に會長水谷博士立ちて次の通り閉會の挨拶を述べ。

### 講演會閉會の挨拶

日本鐵鋼協會會長 工學博士 水谷 叔彦君

二日間に亙る講演會は之で終りました。講演者諸君には日頃精進して調査、研究になりました結果を御發表下さいまし



て鐵鋼其他に關しましての各方面の新しき狀勢を知る事が出来ました事は誠に欣幸の至りであります。深く講演者諸君に敬意を表しますと共に講演中司會して戴きました皆様に厚く御禮申し上げます。

次に御報告申上げ度い事があります、御承知の通り、香村賞は毎年一回贈呈することになつて居ります。本年は今回の大會迄に詮衡が間に合はぬでしたから次回の大會に贈呈する事にならうと思ひます、御含み置き願ひます。

明日からは三日間見學になります、諸君は豫定の通り各工場の御厚意に依つて見學を致されんことを望みます、之で講演會を閉ちます。(拍手)

**晚餐會** 昭和 11 年 10 月 18 日(日)午後 6 時開會

會場 福岡市舊柳町 新三浦

今回の晚餐會は現地實行委員方の御心付にて博多名物水たき料理を選定された、先づ金子、井上兩副委員長初め接待委員等は會場へ

先着され出席者を待受け食堂への案内等幹旋至り盡せり、席定まるや會長より一場の挨拶あり續いて寺野實行委員長招待者を代表し一場の挨拶あり相互の健康と共に協會の發展を祝して乾杯す、一同談笑裡に興味湧き互に舊交を温め新知を求め和氣霽々たり。

### 晚餐會開會の挨拶

日本鐵鋼協會々長 工學博士 水谷 叔彦君

御挨拶申上ます。講演會を終りまして晚餐會を開く事に當りまして……この大會につき殊に御盡力御後援に預りました委員各位、又工場見學を御快諾下されました工場方面の御方並に講演者君に御案内申上ましたところ斯く多數御光臨を得ました事は本會の光榮とするところであります、厚く御禮申上ます。

この度の大會は恰も九州鑛山學會に於ても其例會も同時に當地に於て開かれますにより同會と御相談を致しまして同會の冶金部の講演は本會の講演と合流して昨日と今日に互りて致した譯であります。

又見學も兩方共相互に参加し得ると云ふ相談の下に開きました次第で御座います。この度の大會は出席會員 350 名に達するやうな非常な盛會でありまして洵に欣幸に堪へぬ次第であります。之れは委員長始め委員各位の御熱心なる御盡力と各工場の御後援に依つて斯様な盛況を來たした事と存じます、厚く御禮申上る次第であります。

鐵鋼協會は常に朝野各方面より御援助御後援に領りまして昨今は會員も 2,200 名に達する様な盛況でありまして又連月増員致して居ります、洵に御同慶の至りであります、殊に昨年は鐵鋼に御關係の諸會社の特別なる御後援に預りまして事務所内に始めて圖書室を設け又兼て協會の希望でありました鐵鋼に関する有益なる資料の編纂に着手する事を得ました。會誌にて御報告してあります通り第一着手として鐵鋼要覽の編纂を致す事に定め、俵博士を編纂委員長に同副委員長に河村 驍博士に御願ひしまして着々進行中であります、來年中には刊行の運びになる筈であります又此機會に皆様に申上げて置きますが前會長故野田博士の記念事業が故人の知人に依りて企てられて居ります、この記念事業に寄附を得ました金は或る一部を除きまして殆ど全部鐵鋼協會に協會の圖書の充實、圖書室の整備の爲めに御寄附下さるそう御座います、協會に取りましては此上無い結構なる事でありまして、斯様な次第で我協會も物質方面に於てもだんだん恵まれて参りました、どうぞ會員諸君にはこの上共本會の發展に御盡力下されん事を希望する次第であります。

折角御案内致しましたが萬端不行届であり又御席も不順の處これあるべく恐縮に存じますが平に御寬恕下されましてゆるゆる御寛きを願ひます。又この地方の方々には御迷惑かとも存じられましたが東京方面の方には博多名物のこの「水たき」の方がよからうと云ふ委員の御心入れでこの處に開きました譯であります、どうぞ充分に御歡談を願ひます、之れで私の御挨拶を終ります。(拍手)

### 挨拶

實行委員長 工學博士 寺野 寛二君

御挨拶申上ます。本夕は私共をこの盛大なる御宴會に御招き下さいまして甚だ恐縮で御座います、厚く御禮申上ます。

本鐵鋼協會は創立以來未だ非常に古くなつて居られないに拘らず益々御盛大で御座います會員の數も非常に多く一寸要録を拜見致しましたが資産その他に於きましても非常に堅實な發達をして居られる事は私共甚だ心強く感じて居る次第であります。今日こちらで大會を御開き願ひまして多數有益なる御講演を拜聽致しました、尙斯界の權威者を始め多數の